



絵画 石橋 暢之氏

種差少年自然の家とは



青森県立種差少年自然の家は、少年を自然に親しませ、自然の中での集団宿泊生活を通じてその情操や社会性を豊かにし、心身ともに健全な少年の育成を図ることを目的として、青森県が昭和50年に設置し運営している社会教育施設です。

種差少年自然の家は、八戸市内から約12km南下した、三陸復興国立公園に含まれる名勝「種差海岸」に隣接しています。標高90mの小高い丘の上に建っている施設からは、雄大な太平洋が眼下に広がり、イカ釣りの季節には漁り火と満天の星空を楽しむことができます。近くの海岸には、岩礁や砂浜が広がり、磯の生物観察や魚釣り、手づくりいかだ遊びなどを体験することができます。また、周辺の野山には、山野草や秋には北限のハマギクが咲き、ニホンカモシカ、キツネ、タヌキ等の動物も生息する豊かな自然に恵まれており、四季の自然観察やハイキング等の野外活動にも最適です。

運営の方針



少年たちが、豊かな自然の中でのびのびと体験活動をするにより、自然と人間とのかかわりを理解しながら、生きる力を養うことをめざす。

- (1) 豊かな自然体験や生活体験を通して、自然への関心を高め、生命尊重と尊敬の念をもたせるように努める。
- (2) 集団宿泊活動を通して、意欲的・自主的な体験活動の中で、互いによりよい人間関係を深め、たくましい実践力と創造力を培えるように努める。
- (3) 多様な活動に対応できるように、教育環境整備と安全確保等の危機管理意識を高めるとともに、子どもの興味・関心のある学習機会の提供に努める。
- (4) 利用効果の向上を目指し、学校、地域、各種団体等との連携確保に努める。

種差少年自然の家のマーク



全体の形は、少年の「少」の一字を形どったものです。左右に広がる山野、眼下に見る太平洋と波、豊かな自然に囲まれた環境の中で、友情（だ円）を培い、たくましく伸びる（直線）少年の姿を象徴しています。ぐんじょう（群青）は、海の青さを示したものです。

（図案製作者 八戸市 平川則昭氏）